

意見聴取会 意見陳情申込書

天塩川流域委員会 宛

天塩川の河川整備・管理について、次のとおり意見を述べたいので申し出します。

平成17年3月18日

1. 意見陳情申込者

こゝろ氏名

年齢 63歳

性別 (男) ・ 女

こゝろ住所 上川郡下川町

2. ご意見

私は、下川町で食品スーパーを経営する一町民として、天塩川の河川整備について意見を述べさせていただきます。

天塩川の水は、私たち地域住民の水道用水として昔から利用されており、又この地域の基幹産業であります、農業用水としても重要な役割を担っている川であります。

昔から、渇水期の農業用水を確保するため、溜池を造って自己防衛をしたり、ダムによって恩恵を受けながら生活をしてまいりました。

しかしながら、天塩川流域では、これまでも幾度の洪水や災害に見舞われ、尊い生命と財産を失われて来ました。

このことから、ダム建設を含む天塩川の河川整備計画案について、流域の関係する13の市町村において協議検討され、市町村相互の連携のもと、ダムの必要性を認識され、13市町村全ての議会で建設要望を決議されたのであります。

流域の各市町村にあっては、森林整備を進められておりますが、下川町では特に林業に力をいれており、植林も昔から今日まで継続されています。

それにもかかわらず、大雨が降ると川の水が一気に増大し、河床を変えるほどの砂利や砂を押し流し、流域に被害をもたらしています。

近年、地球の温暖化の勢いか世界のあちこちで異常気象が増加しているように感じます。

この地域においても、いつどんな大雨によって大洪水が起こるかわかりません。

新聞やテレビ等で報道される悲惨な洪水被害から地域を守り、財産を守るためにも、サンルダム建設による治水事業を進めて頂きたいと思います。

今 下川町は、過疎化と高齢化社会を迎え、新たな地域づくりを進めなければなりません、これまでもわが町は、町民の知恵とアイデアからアイスクャンドルが生まれ、牧草造成で出てきた石を、何かに利用できないかと考えて生まれた万里長城など、地域活性化を図るため町をあげて取組んでまいりました。

その結果ユニークなまちづくりを進める町として、これまで多くのメディアに取上げられてきました。

新たな地域振興の一つとしてサンルダムは、私たち下川町民にとって楽しみな存在になっています、それはサンルダムが市街地から数キロメートルという近距離にあり、街とダムが共生できる地理的環境にあるからです。

平成13年から今日まで、ダムの周辺を整備することによって、町民が楽しみ、癒しの里を作ることによって都会の人を呼び交流人口を増やすことができないかなど、町民とダムが共生できる周辺整備について、未来の夢を語り合って参りました。

意見交換の一例を紹介しますと

子供たちが、水辺で家族と一緒にあって、楽しく遊んでいる姿が目に見え。

観光で訪れた人たちが、森の散策路をゆったりとした気分で歩き、都会で疲れた心を癒すことができるような整備をしたら人が集まるのではないかな。

森の中に実のできる木にこだわって植林してはどうか。

自然の生態系を観察できる、ビオトープゾーンが必要ではないか 等等

森林とダムと町民が共生できる周辺整備について語り合い、この夢が実現できるよう意見提言を続けているところであります。

町民参加型エコロジーテーマパーク構想は、サンル地区の豊かな自然を背景とした様々な資源を活用しながら環境の保全と循環型まちづくりを提案し、環境教育、環境文化、環境産業、そして環境のまちづくりをコンセプトとしています。

最後に申し上げたいことは、ダムの建設によって水没するサンル地区は、明治39年以来厳しい酷寒風雪に耐え、不屈の闘魂をもって、うっそうたる大森林に挑み未開の大地に鉄をふるい、幾多の困難を克服し、サンルの基礎を作りあげた先人の地域であります

この先人の遺産を守りつづけて来られた地権者の皆様が、天塩川流域の方々のご生命と財産を守るためのダム建設であること、森林との調和・自然との共生等・時代の要請に応え得るダムに生まれ変わる、新しいサンルの1ページが始まると信じ、この地に住む人々がダム建設に同意され、開拓の地を離れたと聞いております。

河川整備については、いろいろな意見があると思いますが、地権者の決断や流域13市町村の決議によってはじめられた河川整備計画を1日も早く完成することを熱望します。